平成25年度　第３回岡崎市市民協働推進委員会会議録

日　　時　　平成26年１月30日（木）午後３時30分～午後５時
場　　所　　岡崎市福祉会館３階視聴覚室
出席委員　　牛山久仁彦委員長・関谷みのぶ委員・神尾明幸委員・石川優委員
　　白井宏幸委員・三島知斗世委員・今井友乃委員・石川貢委員
　　柴田秀和委員・宮澤会美香委員
事 務 局　　市民生活部（市民協働推進課）：髙田部長・梅村課長・雑賀副主幹
　　石原主査・江場主事・入木事務員
　　文化芸術部（文化活動推進課）：小田課長・神谷主幹・近藤主査
　　細野主事
傍 聴 者　　０名

１　開会のことば

２　委員長あいさつ

３　議題

⑴　岡崎市市民協働推進計画評価・見直しスケジュール（案）について

事 務 局　　資料により説明。
委　　員　　スケジュールについては、この形でよいか。
委　　員　　はい。

⑵　岡崎市市民協働推進計画主要事業の評価シートに対する市民意見募集結果について

事 務 局　　資料により説明。
委　　員　　１団体ということなので、そんなにたくさんは出てこないと思うが、この意見の概要については、実際にはあとで反映された部分があるのですよね。
事 務 局　　はい。ここでは、報告という意味合いが強い。
委　　員　　質問があれば伺いたいと思うが、後ほどの議題と関連しているので、印象としてはいただいた意見の数が少ないかなと思う。１団体から頑張って６項目出してもらったが、できればもう少したくさん意見が欲しいなという気がする。
委　　員　　何団体くらいに意見を出すように話をしているのか。
事 務 局　　市民活動団体にはメール等で案内をした。あとは、一般市民にも公表している。
委　　員　　メール等を出した団体数はどれくらいか。

事 務 局　　200～300くらいの団体には、直接文化活動推進課からメールを出している。

正直なところ、この１団体もりぶらで主に活動をしているりぶらサポータークラブという団体で、そこにこちらから直接聞きにいっていただいた意見を市民意見としてまとめさせてもらった。自発的に出てきた団体は正直ゼロだった。

委　　員　　この意見は的を得ている。我々が承知していることを考えても、こんなところかなと思う。

委　　員　　できれば、今後意見を増やすためには、周知をする方法というよりは、意欲を高めるような何かを考えることは宿題だと思う。

⑶　第２期岡崎市市民協働推進計画の概要（案）について

事 務 局　　資料により説明。

委　　員　　修正点については、いかがか。

委　　員　　前回の考え方が反映され、見直されているから問題ない。

委　　員　　総代会については、よいか。

委　　員　　十分だ。あまり規定しない方がよいということで、こういう漠然とした形の方がよい。

委　　員　　分かりました。

委　　員　　修正項目もよいし、大体できあがってきた。

委　　員　　一度事前に資料を送ってもらった時に目を通しているので、問題ないなと感じている。

委　　員　　一応、今日の意見を踏まえた上で、まとめていきたいということなので最終になるが、他の委員はいかがか。

委　　員　　特段ありません。

委　　員　　ありません。

委　　員　　それでは、大体この内容でよいか。

委員一同　　はい。

⑷　第２期岡崎市市民協働推進計画の主要事業（案）について

事 務 局　　資料により説明。

委　　員　　全体的にとてもよく構成されていると思うが、私が岡崎の実情をよくわかっていない面もあり確認になる部分もあるが、３点ほどある。

１点目は、15ページの「１市民協働に関する情報の収集及び提供―⑴多様な広報媒体を利用した市民活動情報の発信―②市民活動メールマガジンの充実」についてだが、市民活動の情報や、あるいは企業が助成金を行っているような情報というのは、現在ホームペ

ージとかメール等のシステムを使って知ることができるようになっているのかどうか。大学とか企業とか社会福祉協議会あたりが持っており、刈谷市等もそういうシステムを持っているが、岡崎ではどういうふうになっているのか。特に、住民ボランティア等これから裾野を広げていきたいという部分が今回の重点にあるので、もしまだこれからであれば、そのあたりの拡充があってもよいのかなと思った。

事務局　現在、「市民活動情報ひろば」というシステムを市が導入している。この中でトヨタグループと連携して、トヨタグループの中の企業にボランティアの情報が行くシステムができている。例えば、岡崎市の団体がボランティアを募集するという情報がトヨタグループの関連企業に行くシステムができており、お互いに知ることができるようになっている。

委員　では、システムはそれをうまく活用していくということですね。

事務局　そういうことです。

委員　２点目が、16 ページの「２市民活動の支援及び推進―⑴市民活動への財政的支援―④市民活動団体が自立して活動を継続するための側面的支援の検討」のところで、助成金を受けた団体が、そのあとどのように自立していくのかというのは重要な課題だが、支援策の検討も重要である。センターの中で、そういった団体の財政的な自立化をどのように進めていくのかということについて、相談にのったり、助言ができる人が必要だと思う。そういう支援ができる人材の育成や相談機能の強化もあるとよいと思う。

３点目が、19 ページの「５市民協働の推進体制の充実、仕組みづくり等―⑴市民協働推進体制の充実―③市民協働事例集の作成」で、既に作成に向け着手しているということだが、どういう形で作成しているのかなということで、おそらく市民協働推進課で進めていると思うが、事例集を作成する時に市民の目線で事例を分析して、今後どうすべきかを一緒に検討できるとよいと思う。

事務局　現在コーディネーター機能は、岡崎まち育てセンター・りたが地域交流センターにおいて、相談業務等の役割を担っている。今後は計画の中で記載しているとおり、地域交流センターの相談業務等のコーディネーター機能を充実していく必要があると思っており、現在は、その部分を強化していくことが得策かと考えている。

事例集については、現在は職員の目線でしか考えていないため、今後事例集を公表して、多くの方のご意見を集約し、更新していく際に役立てていけたらと思っている。

委員　同じようなことになるが、18 ページの「４市民活動拠点の充実―

⑴市民活動拠点施設の充実―④市民協働コーディネーターの役割の周知」について、“りた”が色々と頑張っていると思うが、“りた”ができてだいぶ経つ。岡崎の中間支援は“りた”が担っていると思うが、ずっと気になっていることは、助成金を出す団体等も固まっており増えてこないし、助成金をいらないと言っている団体もある。そのあたりのことについて、もう少し寄り添う形で本当はどうなのかを聞いたり、先ほどの市民意見募集についても、市民が意見を出さなければいけないということを中間支援ＮＰＯである“りた”がもう少し先導して行っていかなければならないと思っている。もっと市の施策について考えられる人がいて、それを上手に市民に伝えるということをやっていかないと、文面だと「〇〇やりました」「〇〇できました」となっているが、実際には内容が深まったり、裾野が広がったりしていかないのかなと思う。計画で言おうとしていることはその通りだが、実際には、市民協働コーディネーターについて、ちゃんとコーディネートできているのかなと感じるところがある。個人的には、助成金の応募団体が増えていかないのは気になっており、「これでは足りない」「もっと欲しい」となって欲しいと思っているので、核となる人材の育成に力を入れて欲しいなと思う。

先ほど委員も言っていたように、継続するためにはどうすればよいかということは、本当に難しいと思う。結局は、ずっと市の世話になっているのではなく自立しなければならないが、自立するためには、自分たちで工夫しなければならない。市民活動団体アンケートにも、「他の団体等と協力したくない」と答えている団体もあるが、それは相当初期の話である。活動がだいぶ進んでくると、「どこかに知り合いはいないか」等と仲間や他の団体を探すようになり、役立つ人材を獲ってやろうくらいにつながっていくので、まだ内輪だけの活動を行っているのかなという感じがする。せっかく第２期で自立期としていくのであれば、そのあたりを行っていかないと、いつまでたっても成果は文面上のものだけになってしまう。

また、事例集についても、できあがった紙にはあまり意味がないが、作るところに参加することには意味がある。行政も市民と一緒に作ると大変面倒だとは思うが、大変な部分も一緒に感じてもらって、協働は大変だけど、行ったことによってこんな成果が出たということが感じられるものにしていってもらえればと思う。

委　　員　　具体的に何かここを書き換える等はあるか。

委　　員　　書いてあることは書いてある。

委　　員　　要するに市民側が“りた”の利用法を熟知していないところがあ

る。こちらから声かけをすると“りた”は結構動いている。市民活動団体を指導する趣旨の項目は計画に入っていると思う。

委　　員　　“りた”は、市民活動センター等を指定管理者になっており、指定管理者としての役割と中間支援ＮＰＯとしての役割がある。その中で、自立支援において、会費の集め方やマネジメントというのは、目的が違うだけで株式会社と一緒である。その点で言うと、りぶらの中にある企業支援の団体であるＯｋａ－Ｂｉｚのほうがはるかに上だろう。“りた”とＯｋａ－Ｂｉｚは並べて見られている。Ｏｋａ－Ｂｉｚは中日新聞の記事で２週間待ちと出ていたが、本来は、同じように“りた”に相談に行く人も２週間待ちとなるような仕組みにしていくためには、この２団体がある程度一緒に行うというのも必要かなと思う。この問題はこっち、あの問題はあっちとある程度の役割分担を“りた”が行うことによって、本当の支援ができ、新しい市民活動団体がどんどんできてくる。計画の中で書き直すということではないが、その部分を“りた”だけじゃなくてもいいのかもしれないという気がする。

委　　員　　実施には、色々な団体が出てきて競い合うようなことも必要だし、指定管理者の見直しの時期の評価の在り方とか、評価体制のようなところにそういうことは入れられるのかなと思う。市側としても、そんなにみんなやりたがっているのというところもあると感じるので、そういった意味で、これだけ時間が経ってこれでいいのかというのも根拠としてはあると思う。市民意見募集も内容はともかく１件しか出ていなくて、これで本当に市民協働と言えるのかという意見もあるかもしれないので、そこはどのように計画に書き込めるのかは難しいが、やはり適切な評価とか見直しの方向性を検討するとか、中間支援組織の在り方や成果についても検証するということを、どこかに文章で入れてもらえればと思う。

委　　員　　16 ページ「２市民活動の支援及び推進―⑴市民活動への財政的支援―①市民公益活動に対する助成制度の継続実施及び運用改善」について、日ごろ自分が一番よく考えている助成制度の検討ということだが、それぞれ市の中の課等で募集をかけているが、自分の知る限りだと満額いかないところもあるし、制度自体知らなかったということも多々聞くので、市民に広報していけば、これも成果があがっていくと思う。

あとは、団体の育成について事務局でもよく目を光らせてもらって、団体育成という立場でこちらからアプローチをしていけばいいと思う。“りた”に依頼をかけたい人もたくさんいると思うので、どこまで多くの市民に広げていけるのかというところについて、文

章上は理解できるので、実態をどうしていくかというところで検討してもらいたい。

委　　員　　今、委員が言われた、計画は素晴らしいが事実はどうでしょうといった時に、現在、岡崎活性化本部でやっている中で、平成 28 年に岡崎市が市制 100 周年を迎えるので、「市民提案事業の仕組みを作りましょう」「プロボノのようなサポーター組織を作っていきましょう」という時に、具体的な事業で具体的なお金がついてやる中で、いかにこれをうまく計画から市民の目に見える分かりやすい形で実現ができるかという絶好のタイミングだと思う。今回、計画をしっかり作ってもらったことを生かし、市民協働推進課だけではなく、色々な課が連携して行うことができるのではないかというとても期待値が高いものになっていくのではないかと思うので、ぜひ実施していただけたらと思う。

委　　員　　先ほども委員から話があったが、15 ページ１(1)②「市民メールマガジンの充実」について、メールマガジンは特定の人に限られる気がする。広く情報が必要な人向けに、何か他の形で広報的な充実を入れていただきたい。メールマガジンもひとつの手だが、もう少し広く市民に対する広報の手段を研究し、拡充を図ってもらえたらと思う。高齢の人の中には、コンピューターアレルギーの人もかなりいるのではないか。

委　　員　　メールマガジンはメールマガジンでよいとして、これから文化活動に取り組もうという世代の方々やそれ以上の年代の方々に対して、どのように広報していくかということも考えていかなければならない。

委　　員　　ボランティア団体が段々と少なくなってきている感覚がある。助成金のことだけではなく、一緒に活動する仲間を探すことも大切だと思うが、なかなかそういう人はおらず、今は自分で仲間を探さなくてはならない。町内会の活動など、個々の問題に対して仲間を探していくということがもう少しあってもよいのかなと感じる。

委　　員　　市民活動支援機関との連携について、助成金等ではなく、市民活動団体や市民同士のネットワーク形成が必要だということですよね。それでは、18 ページ「３市民活動団体等の連携の推進及び強化」のところに、「交流する」とか「ネットワークを作る」ということだけではなく、「協力」ということをもう少し入れ込んでいけるとよいのではないか。

事 務 局　　“りた”が「まちびとバンク」というボランティア募集を始めて３年が経つ。福祉ボランティアは社会福祉協議会で行っているので、その他の部分をということで、概ね区分して募集している。人材の

ことであれば、地域の活動も含めて「まちびとバンク」を苦労しながら行っているので、活用しながら周知していき、困った人が分かるという形で記載すればよいか。

委　員　　結構です。

委　員　　「まちびとバンク」について、もう少しわかりやすく市民に周知できるとよい。

委　員　　家康公夏まつりでは、「まちびとバンク」にお願いをして、ボランティアの方に参加してもらっている。それと同時に、「まちびとバンク」は行政が行っているイメージがある。ＦＭおかざきと同じようにこの指とまれで行っているので、年間のネットワークを持っている。必ずしも行政だけが集めるという発想でなくても、そういうものを活用するのも手である。「まちびとバンク」は“りた”が行っているが、「まちびとバンク」のＦＭおかざき版のようなものがあってもよいと思う。

委　員　　“りた”は十分やってくれているが、まだ情報量は少ない。

委　員　　18 ページ「４市民活動拠点の充実―⑴市民活動拠点施設の充実―④市民協働コーディネーターの役割の周知」や、19 ページ「５市民協働の推進体制の充実、仕組みづくり等―⑶市民参加・参画手法の推進―②ワークショップ手法のマニュアルの周知」など、事業名に「周知」という言葉が出てくる。事業名として「周知」なので説明もこの通りでよいと思うが、これまでの議論を聞いていて、第２期が自立期であることを考えると、「周知」で終わっていてよいのかなという疑問を持った。先ほど話があったが、岡崎市の 100 周年の期が来ること等、色々なタイミングを考えて自立に向けて進めていきたいのであれば、「周知」は通過段階でしかないので、もっと先を見越して狙いがどこにあるのかを考えて文言を変えた方が、より推進できるのではないかと感じた。

委　員　　自立期であるならば、周知の段階ではないだろうということですね。

それでは、４⑴④「市民協働コーディネーターの役割の周知」は、「市民協働コーディネーターの役割の確立」とし、説明を「～周知し、制度の確立に努めます」とする。５⑶②「ワークショップ手法のマニュアルの周知」は、「ワークショップ手法のマニュアルの活用」とし、説明を「～職員に周知し、活用します」とする。「周知」という文言は説明の方には残し、もう一言「確立します」や「活用します」といった文言を付け加える。

委　員　　19 ページ「５市民協働の推進体制の充実、仕組みづくり等―⑷本市職員の意識改革―①職員研修の充実」の説明の中で、「～研修

となるよう検討します」とあるが、検討し、実施はしないのか。

委　　員　　これは階層別研修にできるかどうかは、まだわからないということではないか。

事 務 局　　研修自体は実施するが、階層別研修になるかは分からない。

委　　員　　市の職員は市民にとっては一番大事だから、実質的に動くように文言を変えてはどうか。やってもらわなければならない。

委　　員　　事務局で、検討してもらう。

委　　員　　「検討」はやらずして終わるが、「実施」はやらなければならなくなる。

⑸　その他

事 務 局　　資料により説明。

委　　員　　市民活動団体登録取り消しについては、特段問題なくいったか。

事 務 局　　はい。

委　　員　　取り消し後の市民活動団体の 560 団体というのは、数は増えているのか減っているのか。

事 務 局　　減っている。平成 25 年４月１日現在で 603 団体あったので、約 40 団体減っている。

委　　員　　予算要求で、公益活動助成金の積算内訳があるが、これは、５万円や 20 万円というのは上限か。

事 務 局　　はい。

委　　員　　何により上限を決めているのか。

事 務 局　　要綱で決めている。以前は、事業支援型が 30 万円だったが、見直して 20 万円に減った。

委　　員　　要綱で減額している訳ですね。

事 務 局　　はい。

委　　員　　分かりました。